

### 第3回 熊本県環境基本指針・計画検討委員会

日 時：令和7年（2025年）10月30日（木）午前9時30分～10時35分

場 所：防災センター 313、314会議室

出席委員：別添出席者名簿のとおり

#### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 開会の挨拶

事務局を代表し、原田環境局長から挨拶があった。

#### 3 会議の成立

事務局から、委員10名中9名出席により、熊本県環境基本指針・計画検討委員会設置要項第2条第3項の規定により、委員会は成立する旨報告があった。

#### 4 審議

議題「第七次熊本県環境基本計画（素案）（パブリック・コメント案）について」  
まず、事務局からの会議資料に基づいて、内容説明。

（会議資料）

資 料1 第七次熊本県環境基本計画（素案）の概要

資 料2 第七次熊本県環境基本計画（素案）（パブリック・コメント案）

資 料3 第2回検討委員会委員の意見への対応一覧

参考資料 現行計画数値目標及び次期基本計画の数値目標（案）一覧

#### 5 御礼の言葉

当委員会は今回で最後の開催であるため、事務局を代表し、原田環境局長から委員の皆様へ御礼。

### 第3回 熊本県環境基本指針・計画検討委員会 議事概要

日 時：令和7年（2025年）10月30日（木）午前9時30分～10時35分

場 所：防災センター 313、314会議室

出席委員：別添出席者名簿のとおり

#### 1 事前質問に対する回答について

（「第3回環境基本指針・計画検討委員会事前意見・質問一覧」参照）

【環境立県推進課 若杉課長】

事前質問及び意見が二点ほどございました。一つ目は農林水産政策課から回答します。二つ目は環境立県推進課から回答します。

まず、農林水産政策課から回答をお願いします。

【農林水産政策課 紙屋課長】

御質問としましては「化学肥料の5割削減」について、対象とする面積は人工湛水のみ面積なのか全てを含めるものなのかという嶋田委員からの御質問をいただいた。

今回御提示する面積については人工湛水のみでなく化学肥料を5割低減した水田の栽培面積を示している。この指標については、環境保全型農業直接支払交付金の取組面積から把握をしている状況であり、この制度に取り組む水稻の面積と併せて冬季湛水、さらには夏季湛水に取り組む作物の面積から算出している全体の数字となる。

【環境立県推進課 若杉課長】

高宮委員から資料2の7、9ページに二種類のCOPが出てくる。こうした条約や会議の訳し方について正確な標記にすべきとの御意見があった。記載を工夫したいと考えている。あまり細かく書きすぎると分かりにくくなるため、何らかの見やすい形で正確に略称を記載する方向で対応する。

記載文については、修正後のものを今後、御相談させていただく。

事前質問及び意見は以上です。

#### 2 その他の意見・質問について

##### （1）化学肥料5割以上低減について

【一柳委員】

嶋田委員からの質問「化学肥料5割以上低減」について、何の5割なのか。

【農林水産政策課 紙屋課長】

元々それぞれの地域で基準があるが、過去の基準、今具体の年度は手元に無いが、数年前の基準から5割削減をするということをベースにしている。それぞれの地域の耕種基準から5割削減としている。

【一柳委員】

対象は水田か。そんなに化学肥料を減らして大丈夫なのか。

【農林水産政策課 紙屋課長】

化学肥料については、堆肥を有機肥料等に換えるということ。併せて、振りすぎているようなところは見直しをしながら削減をして、5割削減までもっていく。

【一柳委員】

水田のみか。

【農林水産政策課 紙屋課長】

基本的に水田のみ。

【一柳委員】

畑の方が化学肥料を入れているイメージがあるが、それは良いのか。

【農林水産政策課 紙屋課長】

水稻作、水田作を中心に行っているため、環境保全型農業直接支払交付金の方では、畑作物の部分についても目標は設定されている。今回は湛水ということであったため、水田について数値目標を設定している。

【一柳委員】

畑の方は他に記載があるのか。

【農林水産政策課 紙屋課長】

環境基本計画への記載は無いが、別の指標に全体の化学肥料の低減割合の記載がある。

【一柳委員】

環境基本計画への記載は不要か。

【農林水産政策課 紙屋課長】

水田面積の方が圧倒的に広いため、水田を記載している。

【一柳委員】

分かりました。

## (2) ゼロカーボンの目標値について

【嶋田委員】

色々質問して確認させていただき、基本的に、特にゼロカーボンについては、国との整合性もあるとのいきさつも理解できたため、自分のコメントについては理解できた。

一つ質問。参考資料の数値目標の一覧について、これが具体的に本日の資料2のそれぞれの章の後ろに掲げられていると理解している。その場合、第4編第1章ゼロカーボン社会の推進について、参考資料の表に相当するものは無いと思うが、どこの部分に入っているのか確認したい。

【環境立県推進課 若杉課長】

資料2の44ページに記載している。

【嶋田委員】

資料2の44ページに書いてあることと4編1章に書いてあることと同じなのか。違うように見えるが。

【環境立県推進課 若杉課長】

参考資料第4編第1章のNo.2再生可能エネルギーからNo.5の再造林面積を資料2の44ページに記載している。

【嶋田委員】

資料2の44ページ表4-1-6か。これは再生可能エネルギーの導入量と森林の吸収量、間伐実施面積、再造林面積。参考資料のNo.1としては温室効果ガスの総排出量の削減率、これはどこにもないが。

【環境立県推進課 若杉課長】

見ていただいている参考資料については、No.2～5、再生可能エネルギーの導入量から再造林面積までは資料2の44ページに記載しており、No.1の温室効果ガスの総排出量削減率については、資料2の43ページ（イ）中間目標に2030年度50%削減が相当している。

【嶋田委員】

そのような形で、様々なところに網羅的に記載されていると思うが、他の章に関しては、章末に数値目標を参考資料と同じように掲げている。ゼロカーボンのところだけ様々なところに散りばめられているが、最終的に取りまとめたものが参考資料のNo.1～6のゼロカーボンの指標だとすれば、それに相当するものを章末に記載すべきではないか。

基本計画全体を見渡した時に特定の章だけが異なる記載をしているのは混乱を招くと思う。読んだときに掲げてある文章とそれに対して到達している状況を数値管理していくという形と思うが、同じスタイルでまとめた方が良いと思う。

【環境立県推進課 若杉課長】

御指摘・趣旨分かりましたので、資料2の44ページの書き方を他と揃える形で調整させていただく。

【嶋田委員】

記載の位置も他の章は最後に数値目標をひとまとめにしている。今の資料2の44ページの位置だとゼロカーボンの施策の途中の位置のため、数値目標を掲げる場所については検討された方が良く考える。

【環境立県推進課 若杉課長】

ゼロカーボンについてはページ数が多くなっているため、どこまで対応可能かも含めて検討させていただく。

【嶋田委員】

県民は、文章として書いた現状とこれからの施策についてどのような形で全体管理していくのかを一覧で掲げた方が、それが到達できているかどうか理解できて良いと思う。

今後、他の部分についても、施策の点検については、数値目標がどこまで進んだかを見ていくと思うため、同じようなスタイルで同じような場所に一覧として載せた方が良いと考える。

【一柳委員】

参考資料は出さないのか。

【環境立県推進課 若杉課長】

出さない。資料２で県民の方に見せる形となるため、統一的な記載にしたいと考えている。

(3) パラダイムシフトについて

【中嶋委員】

質問というよりはコメントとなる。

資料２の２ページ目のパラダイムシフトについて触れており、これは重要だと思う。これについて考えたとき、資料２の４６ページ、例としては、住宅リフォーム時の断熱改修の話などあるが、今、環境省の施策などでも、色々な普及の啓発という段階から実装という段階に入ってきている。この状況を考えると、例えば、難しいことは理解しているが、鳥取県がやっているような断熱の評価の方法やそれに対する補助など、「NE－ST（ネスト）」のような制度を創設して実際に実装をどう進めるか、制度を創設するとの記載は難しいと思うが、何か枠組みを検討するなどの表現を取れないかと考えていた。

あとは、資料２の７４ページの県の役割として、市町村との関係性の中で、計画未策定の市町村へのサポートとして非常に人的なリソースがかかって現実的な問題に当たると考えている。

例えば、策定のあり方についても、共通化できる部分については、ＡＩのようなものを活用するなど、計画のあり方をアップデートしていくような新しい技術の導入という考え方もあるのではと思った。

また、資料２の８２ページの課題のところ、行政施設における太陽光の導入や、構造計算、電力消費量等の課題については、北九州市がやっているようなやり方を考えるなど、熊本県として、どのように実装していくのかを表現する。

また、電力消費量が少ないところについては、別のスキーム、オフサイト（注：需要者の敷地外に設置された発電所で作られた電気を送配電網を通じて供給される電力消費）とか別の違うスキームで発展させるような、まさにパラダイムシフ

ト的な自ら変革していくところを少し表現として打ち出しても良いのではと思う。

ほか、資料２の９０ページで、自分が関わっているＧＩＧＡスクールのところでは、パソコンリサイクルについて、連動して動いていかないと難しいと思う。例えばリユースの意識醸成といってもなかなかこれまで難しところを、ＧＩＧＡスクールのＰＣを入れ替える回収期が来る際に、そこで解体について授業に取り入れてしまう。そうすることによって、リサイクル業者も分解されたものを集めるため、回収も効率的になり、副次的な効果がでてくる。

関係する人たちが連動した取組みをできるよう、意識させる取組みを入れていくのは良いと思う。

パラダイムシフトという考え方に対して、もう少しプロアクティブ（注：先手を打って能動的に行動する）的な表現を取れるととても良いと思う。

ほか、資料２の１０１ページの出口側の循環利用率について、出口側の循環利用率を見るのはリニアのエコノミーの中で３Ｒを評価する印象を受ける。

本来は、もう少し、サーキュラーエコノミーについては、設計段階や生産段階といった入口側を評価すべきものと思う。メーカーとの連携もあるため、数値目標化は難しいかと思うが、本来は入口側を意識すべきと思う。これはコメントとさせていただきます。

【環境立県推進課 若杉課長】

最後のところは課が異なるため、それ以外で回答させていただきます。

鳥取県や北九州市の取組みについても勉強させていただきます。ただ、御理解いただきたいのは、全てを今から施策として実施するのは難しい中で、そのような体制づくりや、ＧＩＧＡスクールも含めて、ゼロカーボンの施策としてだけで何かを進めるのはなかなか理解が進まないというのはおっしゃるとおりと思う。このため、計画にどこまで書けるかなどあるが、近い施策を実行していく過程では、しっかりその視点は入れたいと考えている。可能な限り検討させていただきます。

#### （４）化学肥料の低減について

【農林水産政策課 紙屋課長】

先ほど御質問いただいた化学肥料の低減のベースの年度について、平成２３年度の慣行栽培を基準に５割低減としている。

【一柳委員】

国などが決めているのか。

【農林水産政策課 紙屋課長】

制度上の基準はＨ２３年に定められている。熊本県はそれ以前から減農薬を実施しているため、Ｈ２３となるとかなり厳しいのではとの議論もあったが、国の制度上はＨ２３をベースに５割低減するとなっている。

## (5) サーキュラーエコノミーについて

### 【坂上委員】

先ほど話もあったが、第4編第2章サーキュラーエコノミーについて、出口側の循環利用率の話があったが、別の件でも気になっている。

参考資料N o 9として産業廃棄物の再生利用率を追加したとあるが、本文などを見ても、むしろ利用率が低いのは一般廃棄物の方である。今、サーキュラーエコノミーは当然ながら使ったものを戻すということが大切。環境経済学で言われるのは、埋立ての量を減らすという観点で見ても、リサイクルは非常に重要ということ。

再生利用率は一般廃棄物で上がってきていない。何らかの形でそれを反映できるものはないのか。同じ廃棄物で見ても、リサイクル率が上がってくると埋立量が変わってくる。その意味では、この数値目標ではその部分が見えない。コメントとなるが、気になった点ではある。

全く異なる点で聞きたいが、第4編第5章のN o 33くまさんの輝きの作付面積について、完全に固有名称が入っている。他にも銘柄がある中でなぜここに絞ったのか。もう少し、一般的に書くとすれば高温耐性品種としても良かったのではと思ったが、統計的に取りにくいためにこのようになったのか、宣伝のために固有名詞を取ったのか、どのような意図があったのか確認したい。

### 【循環社会推進課 齋藤審議員】

環境基本計画は、同じ時期に策定を進めている廃棄物処理計画のエッセンス的なものを入れている。

このため、各分野の目標については、廃棄物処理計画では一般廃棄物の再生利用率等含まれている。

中嶋委員の御指摘にもあったが、このようなことを進めていくためには、単に廃棄物の業界だけで頑張っても仕方がない。最初に作ることから、再生、分解できるように作らなければならない。あるいは、ある程度規制でそのようなものを使わないと営業ができないとする方法もある。

その意味では県だけでは進められないものになっており、今、関係の商工業などと話しをするなど、あるいは国の方に施策を進めて欲しいと要望をするなど、総合的に進めながら、数値目標としては迫力もないかもしれないが、今できることを進めていく。

### 【農林水産政策課 紙屋課長】

第4編第5章の数値目標設定のくまさんの輝きについて、これは元々、本県の食料農業・基本計画に設定している指標。御指摘のとおり、いわゆる耐暑性品種といわれるものについては、熊本県が品種を作ったものから他県のものもある。

県としては、くまさんの輝きを耐暑性品種として拡げていき、他の品種から置き換えていく目標としている。まさに、他県の品種でなく熊本県が開発した品種として、目標値として設定している。

【坂上委員】

私もこの品種の論文なども見ていて、ぜひ皆さんに伝えたいと思っている。

(6) 計画本文の表現について

・温暖化について

【小島委員】

一般の方が読んでピンとこないと思う。数字などが書いてあるが、それが自分たちの生活の中にある数字ではないため。

例えば、平均気温が地球温暖化で二度上がると書いてあるが、二度上がったらどうなるのか、昨日と今日でも二度くらいは違う。平均気温が二度上がるとどのくらい違うのかが一般の人は良く分からない。それが1.3度だとしたら何が良いのか、そういう話になる。

もう少し、具体的にこのくらい上がったらどうなるのか、あるいは、ガソリン車を何キロ乗ったらどのくらいCO<sub>2</sub>が出るのか、そのような生活につながるような数値のようなものを例として出せたらもう少し分かりやすくなると思う。

例えば、資料2の28ページに21世紀末の予測がある。これは、熊本地方気象台から取っているとあるが、これは具体的な数値として、1.3度上がると年間猛暑日日数が20世紀末には2日だったのが7日になる、4度上がると26日になる、熱帯夜の日数が4度上がると58日になるなど、二か月に相当するもの。二か月も熱帯夜になるのかという、このような情報があると良いと思う。もう少し、図を出すだけではなく、「このようなことが言われている」などを本文に入れても良いと思う。コメントです。

【環境立県推進課 若杉課長】

おっしゃる通り。県民の方に実感を持っていただく、それを促すような記載にしたい。趣旨としてはコラムがそのような役割のため、そのあたりの工夫を考えたい。

良い材料がどの程度あるかを探した上で、またご報告させていただく。

・図表について

【今村委員】

小島委員のコメントと重なるが、図などが挿入されているが、解像度が悪い。公開するものはもっと解像度を上げると思うが、伝えるという観点で見やすいものにしていただきたい。



コラムのところも挿絵があるが、これも字が小さく、読ませたいのであれば、絵を工夫する、まず絵を見せるなど案はあると思う。

【環境立県推進課 若杉課長】

御指摘を踏まえて、分かりやすく見やすいものにできるよう、調整する。

これまでは施策や本文の調整に注力してきたが、11月以降は誤字脱字も含めて、読みやすさ・見やすさに重点をおいて作業をして参る。

## ・環境教育について

【中野委員】

生活協同組合の理事としてここに来ている。全くの主婦目線、消費者目線の意見となるが、第4編第6章の環境教育、大人もだが、温暖化と温室効果ガスの関係などは広く知られているのは分かるが、例えば、もっとへりくだって、どのような商品からどの程度の温室効果ガスが排出されているのかを知らないことが行動を伴わない原因になっているのでは、と思っている。解決策はもちろん重要だが、その背景を理解することが行動につながると思う。

もう一つ、みどりの食料システム戦略を見ても、もう少し、具体的に言ってもらいたい。「なるほど」となるものが無い。このため、農家の方たちの意欲向上につながる書き方にしていきたい。

【環境立県推進課 若杉課長】

県民一人一人が、この行動でどの程度CO<sub>2</sub>が出ていることが分かる、このため、この行動を控えようといった行動につながる。そこまで具体的に書かないと県民の方には分かっていただけないということだと思う。

先ほど例として、自動車を走らせたならこの程度のCO<sub>2</sub>が排出されるなど、生活活動の中でどの程度CO<sub>2</sub>が出るなど、分かりやすい数値も見つけて記載を工夫したい。

## ・森林、化学肥料関連について

【一柳委員】

良くまとめられていると思うが、結局、これまで質問して答えをいただいているが、自分たちの知っているところしか書いていないイメージが強い。

前に聞いた森林のことについても、結局この表だけで見ても、全体像が見えない。

どれだけ森林があって、そのうちのどれだけが皆伐され、どれだけ回っているか、皆伐が書いていないため、再生林が何か分からない。間伐は何の何パーセントなのか、など全体像が見えない。その中で間伐実施面と再生林面積だけをピックアップされても全体像が見えないのでどうなっているか良く分からない。

その他にも、繰り返しになるが、CO<sub>2</sub>を出さないようにエネルギーを転換したいとあるが、例えばソーラーパネルを建てるには土地が必要、それは大丈夫なのか、つまりソーラーパネルをこれだけ増やさなくてはいけないとして十分な土地があるのか、ということ。

バイオマス発電をすることとしても、取ってきた間伐材を入れるとして、それで目標とするバイオマスの発電量を達成できるのか、見る人が見たら、例えば森林関係者が見たらこれは分からないとなる。バイオマス発電をする人が見ても分からないとなる。おそらく、それぞれ色々あると思う。

そのあたりの全体像を分かるような形でまとめた方が良いと思う。

**【環境立県推進課 若杉課長】**

森林の間伐と再生林の関係、若しくは森林全体でどういった作業が発生しているのか、確かに読んでいて分かりにくいと思っている。可能な限り全体像が分かるような記載をしたい。

専門の内容になるほど、分かっている前提で文章を作ってしまうことがあり、このような場で分からないことを御指摘いただくことは非常にありがたい。分かりやすい記載となるよう検討していきたい。

**【一柳委員】**

結局良く分からない部分が残っていると、良く分からないパブリック・コメントも出ると思うので、二度手間にならないようにしていただければと思う。

自分の感覚では、水田に入れる化学肥料はそれほど多くないと思っている。どちらかというと、畑に振る方が圧倒的に多いと思うがどうか。そのようなことも含めてイメージ的にいうと少ないところだけを取り挙げて良いのか、全体像が良くみえない。

**【農林水産政策課 紙屋課長】**

畑と水田では単純に面積で比較すると水田が多い。作付けされている種類や回数、表作や裏作があり、その結果、水田の方がウェイト的には高い。

ただ、草原や樹園地など、いわゆる畑の延長線上にあるような面積ももちろんある。ただ、農業者の水田営農のウェイトが高く、これを削減するという面では分かりやすいと考えている。

**【一柳委員】**

畑の方は半分に減らすとは国に言われていないのか。

**【農林水産政策課 紙屋課長】**

今回は湛水の面積を入れいているため水田となる。どの農地においても、例えば果樹や他のものについても削減を行っていくという方向性については出されている。先ほど意見も出たみどりの食料システム戦略にもあるが、国の方でも、水田・畑、変わらず、生産行程の中での削減目標が示されている。

【一柳委員】

一般の人が読んで、「畑は書いていないが大丈夫か」と思う。そのようなところが大丈夫かと思う。コメントです。